

## アルコールと薬物

職場でのアルコールと薬物の使用はあらゆる人々に影響を及ぼします。

アルコールと薬物の影響を受けながら職務に従事することはあなた自身、また周りの従業員をも危険に晒すことになります。

薬物の乱用は一般に個人的な問題と捉えられる傾向がありますが、職場においてはそうは道理が通りません。

職場における薬物乱用の形態は様々ですがいくつか例を示します：

- あからさまに酔った状態にある従業員が機械操作をしている。
- 二日酔い状態で勤務している
- 薬物の使用により睡眠不足、または徹夜状態で勤務している
- 休憩時間や昼休みに酒をすすりながら1日中酔った状態で勤務している
- 何人かの従業員がたびたび職場を抜け出し薬物吸引を行っている
- 精神安定剤を医師により処方されている従業員がその効能をよく理解せず機能障害に陥る
- 薬屋で購入した風邪薬の副作用を知らずに意識がハッキリしていない状態で器機を操作
- 急激な気分の変動や意味不明な行動の原因となることを知らずに、一時的な能力の向上を信じてコカイン吸う



往々にして友達である同僚や時として上司の薬物乱用を通報することは簡単ではありません。しかしながらその状況が取り返しの付かない結果や、あなた自身が被害者となり得ることを忘れてはなりません。

時には同僚が薬物を乱用している者を仕事を代わったり、上司への言い訳をしたり金を貸したりすることで庇い始め、結果的に乱用者を手助けするどころか症状が悪化し中毒からの回復を遅らせてしまうという罠にはまってしまう事もあり得ます。

職場での飲酒を黙認しているすることは、他の従業員をアルコール中毒の危険にさらしていることに他なりません。職場での飲酒とは、仕事中の飲酒のほか、出勤前、昼休み、休憩中、出張前、勤務する部隊が主催するイベントでの飲酒なども含まれます。

「酒は百薬の長」と云われ、われわれの食生活及び社会生活において飲酒の習慣はなかなか切り離すことができません。しかし、アルコールと薬物の相互作用には多くの事故が報告されており注意が必要です。アルコールと薬物の相互作用は、1) アルコールと薬物との相加的作用、2) 薬物によるアルコール代謝変化、3) アルコールによる薬物代謝変化が上げられます。また、ある種の医薬品をアルコールと同時に服用すると、相加的作用により肝障害や低血糖等の危険な症状を示します。

勤務中における公用車の運転、また機械を操作する従業員の飲酒運転や酒気帯び運転は、重大な事故につながる極めて悪質な違法行為であり、職員全体の信用を失墜させる行為です。市販の風邪薬であっても、機械を操作する従業員は判断能力に影響を及ぼしますので、機械の運転をしないようにします。

アルコールが消失する時間は、個人によって異なり、たとえ一晩寝たとしても、翌日にアルコールが残っている可能性があります。よく「自分は酒に強いから、一晩寝れば大丈夫」という人がいますが、それは間違った認識で、飲酒の際には、その飲酒量と時間、また翌日の休養に十分な配慮をする必要があります。

私達は、職場において、安全で働く権利があります。職場での薬物乱用は危険を伴いますので、アルコールや薬物の影響を受けながら働いている場合は、すぐに報告して下さい。報告することは、大変な事と思われがちですが、今後、誰かが怪我をしたり、死に至ることを思えば、長期的にみて報告する価値があります。